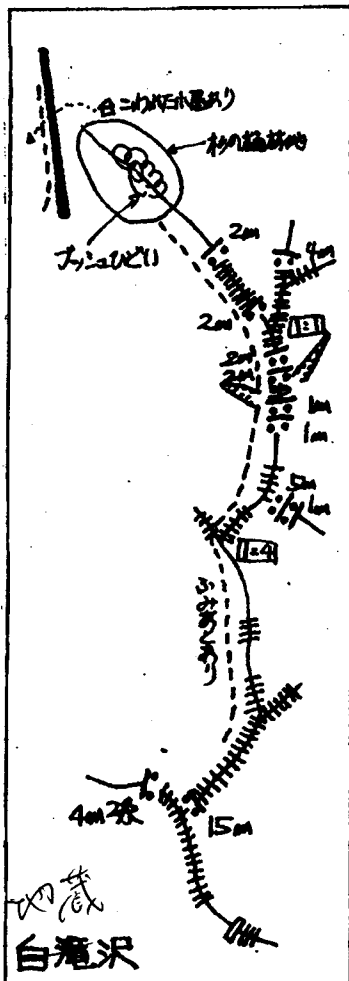


白滝沢

1983年5月21日

虫)



観音堂沢右岸の林道から藪をこいで白滝沢出合より少し下流に降り立つ。白滝沢出合の滝は、滝水が白いスタレをかけたようできれいである。この滝をみて白滝沢と名づけたのなら、なるほどと納得する。観音堂沢本流の方も2条の滝（右岸の用水路からあふれた水が滝のようになって落ちていて、一見3条の滝に見える）がかかっている。

13:40白滝沢の遊行開始。出合の滝は右岸を搦く。バンドがたくさん走っているので、トップロープを張っておいて直登に挑戦すると、登りきれるかもしれない。この滝の上はずっとナメである。沢幅が狭く水量にもめぐまれないが、ここらあたりの小沢はすべてナメがよく発達しているようだ。

30分程で二俣に出る。ここまでは小滝はあったが、障害となるものはなかった。左俣へとルートをとる。ナメが続いている。

間もなく杉の植林地へ出る。途中から主として右岸を走っていた跡跡はこの植林をする際に手入れされたものようだ。沢はブッシュがひどく、通過に意外と時間がかかるようになる。新しく成長したブッシュだけでなく、植林する前に切り張らわれた木々の枝などが沢を埋めているのである。最初は忠実に沢筋をたどっていたが、そのうち沢の流れもごく細くなったので、白滝沢の遊行は終了として、植林帯の中の歩きやすい所を選んで尾根に出る。( )

[タイム] 白滝沢出合(13:40)→遊行終了(14:45)→尾根(15:20)

座頭沢

1983年7月10日

L

梨平から観音堂沢ぞいの林道を30分程歩くと、橋が2つあり、その2つ目の橋の

下を流れているのが県境となっている座頭沢である。

8:50沢に入る。目前にF1 2m、F2 3mの2つの滝が見えている。右岸をへつって取り付き、直登してぬける。ちょっと歩くとF3 8m。西さんが偵察がてら下段5mくらい直登するが、滑りやすいので、右岸を高巻きすることにした。

しばらくゴーロ状とナメを繰り返しながら進む。9:50左右から支沢が合流している所で休憩。このあたりで右岸に踏跡のあるのが見えた。

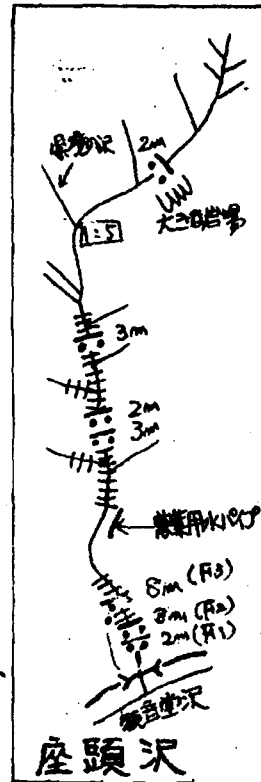
2~3mの小滝をいくつか越えると二俣となる。県境は左の沢ぞいにのびているのだが、私達は水量の多い右の沢に入った。

10:10左岸に大きな岩壁がそそり立っている所に来た。下部の方は石室状になっていて、ピバークもできそうだ。またこの付近にはカモシカの足跡が無数についていた。兩岸にはミスナ、シトキ、アイコ、ウルイなどの山菜が豊富なのだが、今は時期的に遅い。

しだいに狭まる沢筋を倒木をまたぎながらつめる。アイコのトゲに悩まされながら、11:00瀬頭で昼食。あとは左側に見える657mピークを目印に藪をこぎ、10分程で尾根に出る。このあたりまで昔は人が入っていたのか、ところどころに踏跡が残っている。

初めに滝が連続したので、最後まで大きな滝を期待したのだが、F3 8mがこの沢で最も大きな滝であった。

【タイム】 出合(8:50)→大岩(10:10)→瀬頭(11:40)



### 仙館沢(下降)

1983年5月21日

15:30仙館沢の下降を開始する。すぐに小滝が出てきた。斜瀑であり、フリクションがよくきくうえ、沢幅が狭いため岸の樹木の枝を利用できるので、クライミングダウンの必要もなく下る。

兩岸には次々と炭焼き釜跡が出てくる。この沢ぞいは炭焼きの盛んな所だったの